

# Gakken Value Report

## 株主メモ

ホームページも  
ご覧ください。

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
配当金受領株主確定日	期末配当金－3月31日 中間配当金－9月30日
基準日	定時株主総会については3月31日。 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
公告掲載	電子公告により、当社ホームページ ( <a href="http://www.gakken.co.jp/">http://www.gakken.co.jp/</a> ) に掲載いたします。 なお、やむを得ない事由により、電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同商務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(連絡先)	東京都江東区東砂七丁目10番11号(〒137-8081) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-232-711(フリーダイヤル)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店

### 【お知らせ】

住所変更、株券を喪失された場合の手続、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル ☎ 0120-244-479で24時間承っておりますので、ご利用ください。



## 学研

学研ホームページアドレス  
<http://www.gakken.co.jp/>

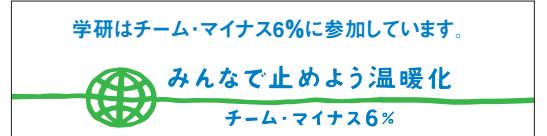


株式会社 学習研究社 本社は、ISOの認証を取得しました。

### 登録範囲

出版、教材関連、教室、IT関連事業等の企画・編集・製作及び販売

JQA-EM5778



## 第62期IR中間報告書

平成19年4月1日～平成19年9月30日

## 株主の皆様へ



株主の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、ここに第62期 I R中間報告書（平成19年4月1日～平成19年9月30日）をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当中間期のわが国経済は、米国経済の減速や金融市場の不安定化などの懸念がある中、国内景気は中小企業の収益に陰りをうかがわせながらも全体的には堅調に推移いたしました。また、出版業界の動向につきましては、書籍・雑誌ともに売上高は前年同期を下回り、依然として売上の減少に歯止めがからず、厳しい状況のまま推移いたしました。

そのような状況の中で、当社グループの当中間期における業績は、売上高は333億6百万円、営業損益は31億5千6百万円の損失となり、売上は伸長したものの、損失の圧縮を実現できず、誠に遺憾な結果となりました。

今後、当社グループは幅広い分野において、優良なコンテンツをより豊富に生み出し、そのコンテンツをより広く世の中に発信する仕組みを構築していくことが重要と考えております。

このようなことを念頭に置きながら、現在、当社グループは、来期第63期を起点とする新たな「中期経営2カ年計画」を策定中であり、成長戦略と事業構造改革をバランス良く推し進め、安定した経営基盤の構築に全力で取り組んでまいる所存でございます。

株主の皆様には、引き続き格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、当期の中間配当につきましては、見送らせていただくことにいたしました。株主の皆様には、何卒、ご了承のほどお願い申し上げます。

平成19年12月

代表取締役社長 遠藤 洋一郎

### 企業理念

私たち学研グループは  
すべての人が心ゆたかに生きることを願い  
今日の感動・満足・安心と  
明日への夢・希望を  
提供します。

### 経営ビジョン

あらゆる価値を融合し、  
「Gakken Value」の追求により、  
新たな学研を創造します。

### CONTENTS

株主の皆様へ 1

トップインタビュー 2

市販出版事業を語る 4

トピックス 6

営業の概況 8

連結財務諸表 10

単体財務諸表 12

会社概要・株式の状況 13

## 「新たな学研を創造する」という経営ビジョンのもと、様々な取組みを進めています。

学研の近況と経営戦略について、代表取締役 遠藤洋一郎社長に伺いました。

### Question 1 上半期の業績についてご説明ください。

非常に厳しい事業環境の中、売上の増加は果たせましたが、利益面でふるわず、株主の皆様にご心配おかげいたしましたことをまずお詫び申し上げます。

利益面での不振は、主に雑誌売上と広告収入の減少によるもので、今後、事業構造改革やコスト削減、営業力の強化を行い、業績回復へ向けて注力していきたいと考えています。

議論と根本的な課題への取組みが行われており今後の成果に期待しています。

### Question 3 M&Aや提携、合弁会社設立などの動きが活発なようですが。

能力開発事業では、前年に引き続き、家庭教師業界大手「タートル先生」、「照和学館」と資本業務提携を行いました。また、資本提携以外にも、「Z会」中学コース教材を学研教室で使用するという試みもスタートさせてています。この事業領域では、いかに早く拡大するかというスピードがポイントで、そのためにはやはりM&Aは



### Question 2 事業本部制と執行役員制を導入された意図と、その効果はどうですか？

4月16日付で、9つの事業本部と執行役員制を導入しました。社会的・経済的に変化の速い昨今、事業領域の広い当社において、迅速な経営の意思決定と、機動的な業務執行を達成するためには不可欠だと判断したものです。事業権限を執行役員に集中することにより、活発な

必須であろうと考えています。

また、中国青年出版総社と合弁会社の設立に合意、中国におけるコンテンツ供給を幼稚園市場からスタートします。今後は、中国市場進出を布石と位置付け、他の海外市場をも視野に入れた事業展開を目指します。

今後とも、当社グループの事業構想に合致し、双方にメリットのある友好的な提携につきましては、積極的に取り組んでいきます。

### Question 5 クロスマルチメディア事業の進捗はいかがでしょうか。

2月から主要Webサイトを立ち上げましたので、実質的には今期が事業開始初年度となります。当初の計画からWebサイトの立ち上げが遅れたことで、各サイトの次なるステップへの進化なども多少遅れ気味です。書籍や雑誌との連携を含め、事業展開上の試行錯誤を繰り返

しながら、早期に新しいビジネスモデルの基盤となる手ごたえをつかみ、出版社としての「ねばならない挑戦」に、取り組んでまいります。

### Question 6 最後に、株主の皆様方にメッセージをお願いします。

「新たな学研を創造する」という経営ビジョンのもと、様々な施策を進めております。今後とも、不断の見直しと変革に取り組んでまいりますが、当社が目指すべき事業の基本理念はいさかも変わりません。

また、よき企業市民としての責務を遂行し、企業倫理とコンプライアンスを遵守する経営に注力してまいります。

株主の皆様には、今後とも当社の経営戦略と構造改革への変わらぬご理解、ご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。



## 市販出版事業を語る

学研の市販出版事業の現状と今後について、  
岩井英夫取締役に伺いました。

Q:「出版営業本部」について教えてください。

A: 販売会社（取次）経由での、書店・コンビニエンスストアルートでの雑誌・書籍出版を、学研では「市販」と呼んでいますが、その販売部門です。一般的に出版社では、販売部・促進部と称していることが多いと思います。出版営業本部は、出版営業部、販売促進部、販売管理室、出版サービス室、通販事業部という5つの組織で構成し、本部制のもとに有機的な連携を図って、販売会社、書店、図書館・学校等の取引先との事業を展開しています。

Q: 市販出版業界の中で、学研の状況はどうですか？

A: 学習参考書「ニューコース」、児童書、「学研の図鑑」、小学生向け「レインボー国語辞典」、中学生向け「ジュニア・アンカー英和辞典」などトップシェア・トップグループブランドも数多くあります。「暮らしの絵本シリーズ」や「大人の科学マガジン」などのベストセラー

### 取締役 岩井英夫プロフィール

昭和28年5月31日生。  
昭和52年3月当社入社。  
人事部長を経て、平成15年6月取締役に就任。  
出版営業本部、人事部担当。

本当に読者のほうを向いて出版物を作っているか、コンテンツの内容が価格に相応しいものなのか、いま出版社に問われていることは、実は非常にシンプルなことだと考えています。



もあり、読者の生活に役立つ、共感していただけるという点では、幅広い商品群を揃えていると自負しております。まあ、それが「学研らしさ」ということでしょうか。

雑誌の場合は、雑誌ブランドがまず目立つので、購読していただいている中、当社の雑誌だとご存知ないケースもありますね。「パーゴルフ」「ゲットナビ」「アニメディア」「ポテト」など、いろいろあるんですよ。

一方で、「おはよう奥さん」「フィット」など女性向け雑誌の場合、「学研が出しているから」という読者のお便りも比較的多く、やはり会社の信頼性といったものがプラスにあらわれているのかな、と思います。

Q: 低迷が続いている出版界が成長に転じるために何が必要なのでしょうか？

A: 確かに、出版業界の昨今は悪いニュースが先行しています。少子化、ネットや携帯による情報量の増大、価値観の多様化など様々な要因が背景にあるのも事実でしょう。

ただし、伸びている出版社がないわけではありません。また、ネット書店の成長、ネットによる検索機会の増加など、ネットが出版ビジネスに有利に作用している部分もあります。

要はやり方と、その徹底ぶりだと思います。本当に読者のほうを向いて出版物を作っているか、コンテンツの内容が価格に相応しいものなのか、いま出版社に問われていることは、実は非常にシンプルなことだと考えています。

また、携帯書籍の伸張や、携帯ゲーム機でのコンテンツも明るい材料ですね。携帯プラットフォームが普及すれば、また、新しい電子書籍、電子雑誌の市場が出現するでしょう。それは、見えてきたビジネスチャンスです。こうした多様なプラットフォームで学研の編集力・企画力を最大限に発揮し挑戦していくこと、それが現在の課題だといえるでしょう。

Q: 今後の注力事項について、教えてください。

A: 出版営業本部としては、業界環境の変化への対応や、マーケティングの徹底によっていかに売り伸ばしを図っていくか、に尽きます。「勝ち組」であり続け、その中で出版業界を盛り上げていきたいと考えています。

出版事業全体としては、やはり選択と集中、重要なブランド、強いジャンルに一層注力していきます。ブランドの強みこそが、コンテンツの価値を高め、会社全体で取り組んでいるクロスメディア事業の成功につながってくると、私は確信しています。



# TOPICS

## 親子のハートをつかむ絵本アイドル・ びよちゃんの絵本が110万部突破!

作者・いりやまさとし氏の描く優しいタッチのイラスト、ほんわか温かなストーリー、しきけなどが人気を呼び、びよちゃんの絵本は、シリーズ合計11冊、合計110万部を突破する人気作となりました。編集部に寄せられるハガキからは「毎晩、読んでとせがれます」というちびっ子人気に加え、「優しい絵に、読んでいる私の心が和みます」といった、読み聞かせをする方への癒し効果まであることが伺えます。今冬から春にかけて、雑人形の老舗・吉徳から、びよちゃんやそのお友達のぬいぐるみやマスコット10点を順次発売予定。2008年2月には新刊絵本3点の発売を控え、びよちゃんワールドはさらに広がります。



最新作「びよちゃんのおはなしすかん~おでがみきたよ~」は大判で、英単語付き。小学生まで広く楽しめ、大好評

## ニンテンドーDS向けソフト 「学研DS 新TOEIC®テスト完全攻略」好調!

「金田一先生の日本語レッスン」に続く学研のニンテンドーDS向けソフト第2弾『学研DS 新TOEIC®テスト完全攻略』が好評発売中です。本ソフトは、大幅なレギュレーション改訂を行い新しく生まれ変わったTOEIC®テストに完全対応しており、目標スコア別の学習や模擬試験などTOEIC®テスト学習者にとって必要な機能を網羅しています。学研の学習コンテンツにおけるノウハウがニンテンドーDSというツールによって最大限に生かされています。今後も学研の持つ財産をフルに活用し、ニンテンドーDSをはじめ新たな分野に挑戦してまいります。



いつでもどこでも新TOEIC®テスト学習を完全サポート

## 大人の科学マガジンVol.17 「テルミンmini」が大ヒット!

付録付き科学ムック『大人の科学マガジン』は、今年の春に発刊4周年を迎えました。Vol.9のプラネタリウムをはじめとする高品質の付録群は、今まで「科学」に無縁だった方からも高く評価され、発刊以来順調にファンの裾野を広げております。そんな中、今年の9月に発売したVol.17のテルミンは、発売後数日で実売80%を超える異例のスピードで完売いたしました。

テルミンとは、楽器に一切手を触れずに本体から出たアンテナに手をかざして音を奏でるユニークな楽器です。なじみの薄い楽器ですが、テルミンについて詳しく知りたい、実際に触れて演奏してみたい、という潜在的なニーズをうまくとらえることができたことが今回の大ヒットにつながったと思っております。今後も魅力的なコンテンツを開発してまいります。



アンテナに手をかざして演奏できる  
テルミン



独自のプログラムに基づいた算数・  
国語の指導を行う

## 発達障害のあるお子さんの教育相談と 学習指導教室がスタートしました

東京学芸大学 上野一彦教授を中心とする外部専門家の指導のもと、LDやADHD、高機能自閉症など、発達障害のあるお子さんとそのご家族の支援を目的とした教育相談と学習指導教室がオープンいたしました。この春に開設した学研発達学習支援センターでは、心理検査やご家族との面談に基づく、個別の支援計画書『学研グリーンレポート』を作成し、専門スタッフによるお子さんの発達や学習面に関するアドバイスを行っています。また、学習指導教室では、小学生を対象に、独自のプログラムに基づく国語・算数の指導を試行しながら、教材開発に取り組んでいます。



「ガチャピン・ムック」は、幅広い  
層に人気がある



高齢者の新しい暮らし方を探求

## 幼稚園・保育園業界へ向けキャラクター(ガチャピン・ムック) ビジネス開始

幼稚園・保育園へ向けたキャラクター商品の開発・販売を目的に、このほど株式会社フジテレビKIDSと業務提携を行い、人気の「ガチャピン・ムック」をはじめとする、様々なキャラクター商品に関する事業を展開してまいります。両社の強みを生かし、学研が持つ幼稚園・保育園への販売ルートおよび教育コンテンツと、フジテレビKIDSが持つキャラクターおよび映像コンテンツを活用した商品開発とプロモーション展開により、他に類のない独自商品を提供してまいります。



2007年学研ステイフル内見会場  
に展示された商品

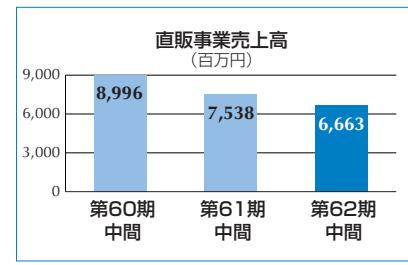
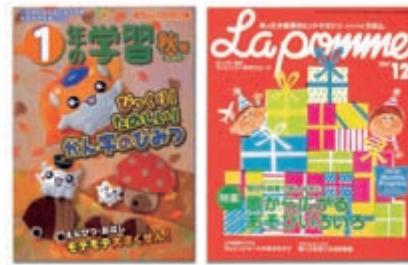
## 学研ステイフルの絵本キャラクターが好調!

学研ステイフルで発売している絵本キャラクターの文具・雑貨が大変好調です。中でも一番の人気は、「リサとガスパール」というフランスの絵本から生まれたキャラクター。当社が2002年より育成してきた絵本キャラクターで、子供だけではなく大人の女性にも支持を得ています。現在、原画展を日本各地で開催しており、来場者数・商品の販売も順調に伸びています。学研ステイフルは、多くのお客様に愛される商品をお届けできるよう、一層努力してまいります。

## 営業の概況

### 直販事業

幼稚園・保育園市場は、少子化の影響や他社との競合激化により、前年同期と比べ売上高・営業損益ともに減少いたしました。学校市場は、取り扱い点数を見直したことから、売上高は前年同期に比べ減少いたしましたが、原価や販売コストの削減が寄与し、営業損益は前年同期に比べ改善いたしました。家庭向け訪問販売市場は、社会環境が年々厳しくなっている影響で、売

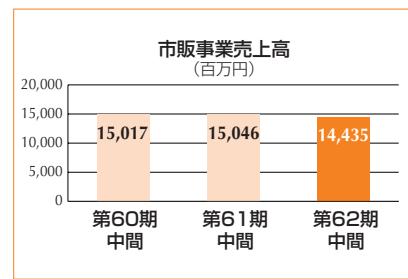


上高は前年同期に比べ減少いたしましたが、商品原価や販売費の見直しを行ったことで、営業損益は前年同期並みに推移いたしました。この結果、直販

事業全体では、売上高は前年同期比88.4%の6,663百万円、営業損失は1,535百万円（前年同期に比べ95百万円の損失増）となりました。

### 市販事業

雑誌分野は、雑誌販売や雑誌広告の市場縮小の影響で、女性誌や男性ファッション誌で販売数や広告収入が前年同期と比べ減少いたしました。書籍分野は、学習参考書の一部について返品が予想を上回ったこと、および実用書の新刊売上が下期に延期になったことなどにより売上高・営業損益ともに前年同期を下回りました。文具・雑貨分野では、「リサとガスパール」「はらべ



こあおむし」をはじめとしたキャラクター商品の好調により、売上高・営業損益ともに前年同期に比べ増加いたしました。この結果、市販事業全体では、

売上高は前年同期比95.9%の14,435百万円、営業損失は633百万円（前年同期に比べ121百万円の損失増）となりました。

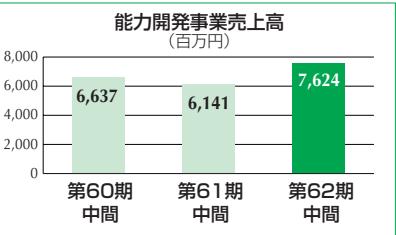
### 能力開発事業

主に小学生を対象とした「学研教室」は、会員数の伸長により売上高は前年同期を上回りましたが、投資コストの増加により、営業損益は前年同期を下回る結果となりました。また、進学塾の「桐杏学園」「あすなろ学院」、家庭教師派遣の「タートル先生」等の事業会社の子会社化により、売上高は伸長いたしました。しかしながら、生徒獲得のための先行投資などもあり、利益



面では前年同期を下回りました。

幼児向け教室の「プレイルーム」は、教室数や会員数の拡大により売上は増加いたしましたが、指導員募集費の増加により営業損益は前年同期を下回り



ました。この結果、能力開発事業全体では、売上高は前年同期比124.1%の7,624百万円、営業利益は120百万円（前年同期に比べ453百万円の利益減）となりました。



### クロスメディア事業

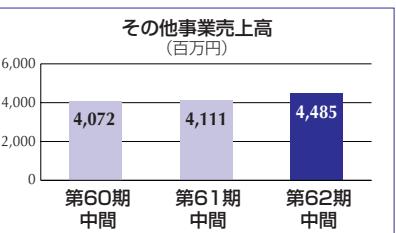
本年2月に20のWebサイトがオープンし、当事業年度より本格的に事業を開始いたしましたが、新しい事業基盤づくりのための投資が先行しております。

また、電子雑誌配信事業の（株）ア

ドマガ、および携帯コンテンツの配信・制作事業の（株）アドモコも、当事業年度より事業開始いたしましたが、新規開発や運営による費用が先行しております。この結果、クロスメディア事業全体では、売上高は96百万円、営業損失は601百万円となりました。

なお、クロスメディア事業は、前期の第4四半期より新たなセグメントと

して区分しておりますため、前年同期対比はしておりません。



の認知が高まったことで、売上高は前年同期比で増加し、また、営業損益面でも前年同期に比べ損失減となりました。また、子会社であります（株）スリー・エー・システムズ（現：（株）テック・インデックス）が前年9月に連結子会社から持分法適用会社に変更になったことにより、当事業年度の同社売上高および営業損益は発生しておりません。この結果、その他事業全体では、売上高は前年同期比109.1%

の4,485百万円、営業損失は532百万円（前年同期に比べ303百万円の損失減）となりました。

## 連結財務諸表(要旨)

## ● 連結貸借対照表

科目	当中間期 (平成19年9月30日現在)	前中間期 (平成18年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	39,787	47,082
現金及び預金	9,719	14,333
受取手形及び売掛金	16,274	16,664
たな卸資産	13,157	15,504
繰延税金資産	39	26
その他	717	659
貸倒引当金	△120	△105
固定資産	31,221	25,343
有形固定資産	14,427	10,047
建物及び構築物	1,153	1,274
土地	8,507	8,500
建設仮勘定	4,499	—
その他	267	272
無形固定資産	4,788	2,796
のれん	659	217
その他	4,129	2,578
投資その他の資産	12,005	12,499
投資有価証券	9,421	9,603
差入保証金	1,514	1,569
その他	1,069	1,325
繰延資産	—	5
資産合計	71,009	72,430

科目	当中間期 (平成19年9月30日現在)	前中間期 (平成18年9月30日現在)
負債の部		
流動負債	19,241	16,390
支払手形及び買掛金	9,281	9,191
短期借入金	900	895
その他	9,060	6,304
固定負債	17,914	16,300
長期借入金	3,205	—
退職給付引当金	7,143	7,368
その他	7,565	8,931
負債合計	37,155	32,690
純資産の部		
株主資本	32,294	36,842
資本金	18,357	18,357
資本剰余金	17,499	17,499
利益剰余金	△3,516	1,018
自己株式	△46	△33
評価・換算差額等	1,356	2,694
その他有価証券評価差額金	1,398	2,759
為替換算調整勘定	△41	△65
新株予約権	37	—
少数株主持分	165	203
純資産合計	33,853	39,740
負債純資産合計	71,009	72,430

(単位:百万円)

## ● 連結損益計算書

科目	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)
売上高	33,306	32,838
売上原価	20,137	21,537
返品調整引当金戻入	965	1,050
売上総利益	14,134	12,351
販売費及び一般管理費	17,291	14,582
営業損失	3,156	2,231
営業外収益	168	125
営業外費用	440	376
経常損失	3,428	2,481
特別利益	69	117
※特別損失	4,034	162
税金等調整前中間純損失	7,394	2,526
法人税、住民税及び事業税	97	77
法人税等調整額	△11	8
少数株主利益又は損失(△)	△30	△37
中間純損失	7,450	2,574

(単位:百万円)

## ● 連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,543	1,918
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,020	△1,538
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,846	△98
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	△7
現金及び現金同等物に係る増加額 (減少は△)	△1,620	273
現金及び現金同等物の期首残高	11,186	14,060
現金及び現金同等物の中間期未残高	9,566	14,333

(単位:百万円)

## ※ 当中間期の主な特別損失は「棚卸資産の評価に関する会計基準」の早期適用により評価差額の計上を行ったものです。

## ● 連結株主資本等変動計算書 当中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

	株主資本					評価・換算差額等			新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計			
前期末残高	18,357	17,499	4,357	△37	40,176	2,272	△53	2,219	—	191	42,587
当中間期変動額											
剰余金の配当						△423	△423				△423
中間純利益						△7,450	△7,450				△7,450
自己株式の取得						△9	△9				△9
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)								△874	11	△862	37
当中間期変動額合計	—	—	△7,873	△9	△7,882	△874	11	△862	37	△26	△8,734
当中間期末残高	18,357	17,499	△3,516	△46	32,294	1,398	△41	1,356	37	165	33,853

## 単体財務諸表（要旨）

## ●貸借対照表

科 目	当 中 間 期		前 中 間 期	
	(平成19年9月30日現在)		(平成18年9月30日現在)	
資産の部				
流動資産	32,583		39,838	
固定資産	33,310		27,440	
有形固定資産	13,874		9,663	
無形固定資産	3,878		2,561	
投資その他の資産	15,557		15,215	
資産合計	65,894		67,278	
負債の部				
流動負債	15,601		13,388	
固定負債	17,095		15,026	
負債合計	32,697		28,415	
純資産の部				
株主資本	31,761		36,102	
資本金	18,357		18,357	
資本剰余金	17,499		17,499	
利益剰余金	△4,049		279	
自己株式	△46		△33	
評価・換算差額等	1,398		2,759	
その他有価証券評価差額金	1,398		2,759	
新株予約権	37		—	
純資産合計	33,197		38,862	
負債純資産合計	65,894		67,278	

## ●株主資本等変動計算書 当中間期 (平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

	株主資本										新株予約権	純資産合計	
	資本金	資本準備金	資本剰余金	その他資本	資本剰余金	利益剰余金	その他利益剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
前期末残高	18,357	4,700	12,799	17,499	26	1,500	1,922	3,449	△37	39,268	2,272	—	41,541
当中間期変動額													
剰余金の配当						△423	△423			△423			△423
別途積立金の積立													
中間純利益						△7,075	△7,075			△7,075			△7,075
自己株式の取得													△9
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)													△9
当中間期変動額合計						△7,498	△7,498	△9	△7,507	△874	37	△8,344	
当中間期末残高	18,357	4,700	12,799	17,499	26	1,500	△5,575	△4,049	△46	31,761	1,398	37	33,197

## ●損益計算書

科 目	当 中 間 期		前 中 間 期	
	(平成19年4月 1日から 平成19年9月30日まで)		(平成18年4月 1日から 平成18年9月30日まで)	
売 上 高	26,678		28,167	
売 上 原 価	17,411		19,113	
売 上 総 利 益	9,266		9,054	
返品調整引当金戻入	961		1,050	
差引売上総利益	10,228		10,104	
販売費及び一般管理費	13,189		12,120	
営 業 損 失	2,961		2,015	
営 業 外 収 益	197		137	
営 業 外 費 用	402		321	
経 常 損 失	3,165		2,199	
特 別 利 益	56		80	
特 別 損 失	3,923		157	
税引前中間純損失	7,032		2,276	
法人税、住民税及び事業税	42		40	
中 間 純 損 失	7,075		2,317	

## 会社概要・株式の状況

(平成19年9月30日現在)

## 会社の概要

- 商 号 株式会社学習研究社 (英文表示 GAKKEN CO., LTD.)
- 設 立 昭和22年3月31日
- 資 本金 18,357,023,638円
- 従 業 員 1,039名
- 事 業 所 本 社 〒145-8502 東京都大田区上池台4-40-5  
TEL (03) 3726-8111  
第2ビル 〒146-8502 東京都大田区仲池上1-17-15  
TEL (03) 3726-8111  
第3ビル 〒141-8502 東京都品川区西五反田4-28-5  
TEL (03) 3493-3212
- 学研ホームページアドレス <http://www.gakken.co.jp/>

## 株式の状況

- 発行可能株式総数 399,164,000株
- 発行済株式の総数 105,958,085株
- 株主数 8,514名

## 大株主 (上位10名)

株主名	当社株式の所有状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
財団法人古岡獎学会	13,888	13.10
バンクオブニューヨーククジーネム	13,786	13.01
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,703	4.43
ユービーエスセキュリティーズエルエルシー	3,754	3.54
カスタマーセグリゲイティッドアカウント		
チーズマンハッタンバンクジーティー	3,542	3.34
エスクライアンツアカウントエスクロウ		
学研取引先持株会	3,421	3.22
凸版印刷株式会社	3,234	3.05
ロイヤルバンクオブカナダトラスト	3,179	3.00
カンパニー・ケイマリンリミテッド		
株式会社三井住友銀行	3,000	2.83
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,439	2.30

## 株式の分布状況

